

1-1 沖永良部地域を支える担い手の確保・育成 (経営体・新規就農)

【成果の要約】

- 1 担い手の経営段階に応じて、栽培管理・複式簿記記帳指導による経営管理指導や経営改善のための計画書作成（認定農業者・資金）支援を行うとともに、専門家と連携して法人化へ向けた研修会・相談会を開催し、新たに1法人が設立された。
- 2 新規就農者に対して、基礎講座・部門別研修・個別指導を通じて、基本的な生産・経営管理技術の習得を支援した。
- 3 サポートチームを活用した就農相談や個別面談の提案を通じて新規就農者が早期に定着できる体制づくりへ向けた支援を行った。

1 対象

(連携) 各町・各JA・花き農協，法人志向農家12戸，パソコン簿記記帳対象農家102戸，担い手確保・育成普及活動対象農家18戸，家族経営協定推進農家3戸，(連携) 沖永良部・与論指導農業士会，新規就農者(R2～R6)44人

2 課題を取り上げた理由

- (1) 担い手総合支援協議会との連携・強化に向けて、町ごとに担い手確保・育成課題を明確にしたうえで活動を展開していく必要がある。
- (2) 認定終期到来者，認定新規就農者の認定農業者への誘導が不可欠であるとともに，各経営体の農業経営発展段階に応じて，「経営管理能力の向上」や「経営計画の作成」，「法人設立」等による目標達成に向けた支援が必要である。
- (3) 新規就農者の経営基盤の確立には，基本技術習得，運転資金や機械装置，施設や家畜導入が必要で，各種政策を活用した営農継続及び経営の安定・発展が必要である。

3 活動内容と成果

- (1) 担い手の経営安定支援

ア 担い手支援体制の整備

町ごとに「担い手担当者会」を開催した。新規就農者育成等の推進については，新たな就農相談体制の試行や個別面談などを実施した。

イ 担い手の経営改善支援

- (ア) 認定農業者に対する支援

与論町認定農業者を対象に，県派遣税理士を講師として「経営発展研修会」を開催した。経営発展に伴う法人化のメリット(信用や人材確保)やそれに伴う税務対策，各種保険加入義務などの情報提供により留意点の理解を深めることができた。

- (イ) 法人化に向けた個別相談会



【経営発展研修会】



【専門家(税理士)との相談会】



【専門家(社会保険労務士)との相談会】

かごしま農業経営・就農支援センターと連携し、法人設立を志向する農家3戸に対し、専門家（税理士や社会保険労務士）による個別相談会を開催した。経営発展・継続に向けた法人設立の意義や利点及び留意点、労務管理や具体的な手続きに関する支援を行い、うち1戸の農家が新たに法人を設立した。

(ウ) 複式簿記記帳支援及び経営基礎研修

各町担い手育成総合支援協議会と連携して、パソコン複式簿記研修会を開催した。与論町においては全面的にJA自動仕分けシステムを活用した取組みが2年目となり、効率化が図られている。また複式簿記基礎研修会を開催し、パソコンによる複式簿記の重要性について周知し、新たに11名が複式簿記を開始した。

(エ) 経営改善計画等作成支援

農業経営の目標達成に向けた経営改善計画への支援を行った。特に本年度は広域認定者の計画作成支援に努めた。また日本政策金融公庫と連携して、営農計画作成を支援し、スーパーL資金や青年等就農資金の活用にも努めた。

(2) モデル担い手の育成

重点支援対象農家17戸に対し、個別指導を行い、経営分析に基づいた個別支援を行った。技術及び経営上の課題解決に向けた改善方策等の検討を行い、支援することで経営改善が図られつつある。

(3) 家族経営協定推進

与論町の夫婦が今後の目標、役割分担等について話し合い、協定締結に至った。「妻は、協定が経営の道しるべになる。夫は、協定が経営を見直す良い機会になった。今後は、お世話になった方や家族へ恩返しをしたい。」と抱負を語った。

(4) 新規就農者支援

ア 経営確立への支援

新規就農者励ましの会に3人が出席し、指導農業士をはじめ地域や関係機関からの激励により営農への意欲を新たにした。基礎講座に10人の出席があり、早期に経営・栽培管理技術の基礎について習得しつつある。知名町において、個別面談を行い、就農計画の達成状況を踏まえながらサポートチームで助言指導を行った。

イ 就農希望者への助言

就農相談の際、各町と連携して面談ができる体制づくりを提案し試行できた。青年等就農計画と併せて営農生活設計の必要性について理解の働きかけを行った。



【新規就農励ましの会】



【基礎講座】



【新規就農者への個別面談】

4 今後の課題

- (1) 各町担い手協議会と連携した担い手への支援強化
- (2) 技術・経営分析・診断による農家への円滑な経営改善支援
- (3) 各町と連携した新規就農者個々の課題に応じた支援の検討
- (4) 部門別研修や各部会における支援

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○折田，川野，岩崎，松田，満吉，水迫，肥後

1-2 沖永良部地域を支える担い手の確保 ・育成(青年農業者・女性農業者)

【成果の要約】

- 1 青年農業者1人が個人プロジェクト、各町青年農業者クラブが地区青年農業者会議で共同プロジェクトの発表を行った。農業青年プロジェクト活動の必要性について理解が深まり、新規取り組み者が増えている。
- 2 新たに青年農業士1人、女性農業経営士1人が認定された。
- 3 女性農業経営士の資質向上、リーダーの育成、女性農業者組織のプロジェクト活動の支援については、計画通りの取り組みができた。

1 対象

和泊町農業青年クラブ8人、知名町農業青年クラブ12人、与論町農業自営者クラブ18人、女性農業経営士及びはるあぐの会25人、和泊町スマイル&フレッシュ13人、知名町農業女子会23人、よろん和牛女子11人

2 課題を取り上げた理由

- (1) 農業青年クラブ、女性農業者組織の自主的な活動に向けて継続的な支援が必要である。
- (2) 青年農業者の技術面、経営面での課題解決能力向上を図るため、プロジェクト活動の支援が必要である。
- (3) 女性農業者が農業経営・栽培管理技術を十分に習得できるよう支援し、新たなリーダーの育成が必要である。

3 活動内容と成果

- (1) 青年農業者の育成

ア 課題解決能力向上支援

青年クラブのプロジェクト活動と併せて個人プロジェクトの課題設定を行い、経営改善に向けた支援を行った。地区青年農業者会議において、個人プロジェクト1名、意見発表2名が発表した。



地区青年農業者会議

- (2) 各町青年クラブ自主的活動支援

ア 共同プロジェクト実施支援

和泊町は、和泊町実験農場においてカボチャのマルチ有無の生育比較支援を行った。マルチ無しは、雑草に初期生育が阻害され比較ができないため、品種の生育特性の把握を行う。

知名町は、パッションフルーツの管理作業について、つり上げ仕立てなどの新しい技術の習得に意欲的である

与論町は、イチゴ共同プロジェクトは、病気や室外で枯れる株が多く難しいため、プランターから地植えで4品種に取り組んでいる。



知名町産業祭に出展

(3) 女性農業者育成支援

ア 女性農業経営士の資質向上

地域の研修会や地域活動等に意欲的に取り組み資質向上に努めた。はるあぐの会を中心にスマイル&フレッシュ、JA女性部等と連携し、NPO法人霧島食育研修会千葉しのぶ氏を講師に沖永良部の食材を活用した調理実習と講演会を開催し、食育・地産地消推進と併せて組織の相互交流が図られた。



講演会



調理実習



交流会

イ リーダーの育成支援

部会活動や研修会等に積極的に参加し、栽培管理やパソコンを活用した複式簿記記帳による経営改善に意欲的な女性農業者を支援し、1名が女性農業経営士に認定された。

ウ 女性農業者の経営・栽培管理技術の能力向上

スマイル&フレッシュは、我が家の花を活用して「母の日」イベントの開催や営農生活設計研修、島内研修等を実施し、能力向上を図った。よろん和牛女子においては、飼養管理に関心が高く研修会を通して飼養管理技術の向上に努めた。



スマイル&フレッシュ「母の日」イベント及び島内研修



よろん和牛女子研修会

4 今後の課題

- (1) 青年農業者及び女性農業者のプロジェクト活動については、我が家の農業経営改善につながる課題設定及び取り組みの支援
- (2) 女性農業者の我が家の農業経営や地域活動への参画が進むよう、先輩から後輩へいろいろな知識・技術・情報提供ができる機会づくり
- (3) 女性農業者の経営管理・栽培管理技術能力の向上

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○岩崎，川野，折田，松田，満吉，市来，下池